

編集後記

『年報』一八号をお送りいたします。

本号は特集は組みませんでしたが、経済学のみならず社会科学全般にわたって現在も多大な影響を与えているマルクスとケインズ両泰斗のそれぞれ没後一〇〇年、生誕一〇〇年を記念して、マルクス研究、ケインズ研究のそれぞれ第一人者である望月清司所員と平井所員に特にお願いして、マルクスとケインズに関する研究動向とその今日の意味を分析していただきました。お二人に感謝いたします。

また、本号でも所員お二人の労作に対するそれぞれの問題に造詣の深い所外の方による「書評」を掲載することができました。相沢与一先生、杉原四郎先生にはお忙しいところを心よくご承諾いただき、内容のある「書評」をいただきありがとうございます。

本年度もまた社研所員として、また専修大学教員として永い間貢献してくださった、今田治弥、大友福夫、遠山茂樹、西田勲、林基の五所員が定年で退職されることとなりました。五先生の今後のご健康とご活躍をお祈りします。

『年報』の編集を担当して二年目、感想はやはり「大変シンドイ」でした。一番大変だったのは、年度内刊行を実現するため、執筆者と出版社との連絡調整の問題でした。執筆者

各位には、校正を大変いそがせたりして、ご迷惑をおかけしましたが、お陰様で各位のご協力でどうやら年度内刊行を実現することができました。執筆者各位にお詫びと感謝の気持ちを記しておきたいと思います。

また、社研事務局の竹内佐和子さんには執筆者および出版者との連絡、その他で編集担当の仕事を助けていただきました。ここに感謝の意を示しておきたいと思います。

今冬は異常気候ともいうべきでしょうか、東京には何度も雪が降り積りました。この後記を書いている現在も三月の半ば過ぎというのに雪が降り続いています。

皆さんどうぞ健康にお気をつけ、一九八四年度をお過ごし下さい。

編集担当、柴田弘捷記